

3月2日(月)

令和8年度 B日程入学試験問題  
文学部 (史学科)

# 地理歴史

— 注意事項 —

- 1 問題は1ページから9ページ、解答用紙は1枚である。
- 2 **1** ~ **5** のうち1題を選んで解答すること。
- 3 解答はすべて解答用紙に記述すること。解答用紙に受験番号と氏名を記入し、選択した問題番号を必ず○印で囲むこと。
- 4 試験時間は60分である。



# 日 本 史

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

古墳は、3世紀中頃に近畿地方から瀬戸内海沿岸に出現し、4世紀前半までに九州地方から東北地方南部に広がった。古墳時代前期(3世紀中頃～4世紀後半)には、大和地方を中心に大型の前方後円墳が営まれ、中期(4世紀末～5世紀末)になると、大阪平野を中心にさらに巨大な前方後円墳が築造された。例えば、2019年にユネスコ世界文化遺産に登録された [ 1 ] には、この時期のヤマト政権の大王墓と目される、最大規模の古墳である大仙陵古墳がある。また、岡山・群馬・宮崎などにもこの時期の巨大前方後円墳が分布し、これらの地域にも有力な首長がいたことが知られる。

5世紀後半以降、古墳の規模は縮小し、古墳時代後期(6世紀～7世紀)にはその傾向が顕著になる。6世紀には小規模の円墳・方墳のほか、10数基から100基ほどの小型古墳を密集して営んだ [ 2 ] が各地に出現した。古墳時代の終末期にあたる7世紀になると、前方後円墳は築かれなくなり、[ 2 ] も減少するが、地方では大型の円墳・方墳が築造された。これらはヤマト政権の地方官である [ 3 ] に任命されるなどした一部の豪族層が営んだものと考えられている。7世紀中頃から後半にかけては、大王・天皇級の墓に [ 4 ] が採用された。齊明天皇陵とされる牽牛子塚古墳、天武・持統天皇陵の野口王墓古墳はその代表的な例である。大陸文化の影響を受けた壁画古墳も営まれた。1972年、奈良県明日香村では、墓室に男女群像、四神・星宿を描いた [ 5 ] が見つかっている。

こうした古墳には、墳丘に葺石が敷かれ、埴輪が並べられることがあった。埴輪は首長が行う儀礼や葬送の様子を表現したものと考えられているが、古墳時代前期には円筒埴輪のほか、家形埴輪、盾・鞞・蓋ゆき きぬがさなどを表現した [ 6 ] が用いられたのに対し、古墳時代中期には人物や動物を模した埴輪も用いられた。

埴輪と同じく、古墳の (A)埋葬施設や遺体とともに埋葬された (B)副葬品もまた時期によって様相を異にする。一方で、各地に営まれた古墳には、墳丘の規模に違いがあるものの、墳丘の形状や埋葬施設・副葬品などに共通点もみられる。これは、古墳時代にヤマト政権が日本列島各地の有力豪族を包摂し、支配体制を築いていったことに関連すると考えられている。

問1 空欄 [ 1 ] ～ [ 6 ] に入るのに最もふさわしい語句を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部（A）の一種である横穴式石室について、80字以内で説明しなさい。

問3 下線部（B）に関して、古墳時代前期から中期にいたる様相の変化と、そこから分かる被葬者の性格について説明するとともに、古墳時代中期の副葬品・被葬者の性格変化の背景にあるヤマト政権（倭）の朝鮮半島との関係を、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。（例：九州や東日本では装飾古墳が見つかっている。）

広開土王碑	三角縁神獸鏡	短甲	馬具	腕輪型石製品
勾玉	鉄製武器	呪術的	百濟	倭の五王

# 日 本 史

## 2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

18世紀末以降、諸外国のさまざまな船舶が日本の沿岸に接近・停泊し、時に大きな問題を生むことがあった。

1837年、アメリカの [ 1 ] モリソン号が浦賀沖に接近し日本に通交を求めようとしたが、幕府は異国船打払令にもとづきこれを撃退した。

1854年、下田で日露和親条約に調印したプチャーチンの乗艦ディアナ号は安政の大地震の津波で大破し、プチャーチン一行は一旦帰国するすべを失ったが、日本の船大工がロシア人の指導によって帆船 [ 2 ] 号を作り上げ、これにより母国に帰ることが可能になった。これは江戸時代に築かれた造船技術の高さを示すものであった。

海軍伝習所・横須賀製鉄所にみられるように幕府は独自の海軍建設を志向し、これを継承した明治新政府も富国強兵をスローガンに急速な海軍充実を目指した。1875年の江華島事件では軍艦 [ 3 ] 号による挑発が事件のきっかけを作った。

1886年、[ 4 ] の汽船ノルマントン号が暴風雨のため沈没、日本人乗客が全員死亡した事件の裁判は、不平等条約に対する世論の反感を大いに高めた。

(A) 日清戦争・日露戦争においては海上戦闘で日本は大勝利し、第一次世界大戦に際しては地中海に日本艦隊が派遣された。

(B) しかし大戦後、海軍縮小の時代を迎え、1936年の海軍軍縮条約失効までその時期は続く。その間、陸軍でも軍縮がなされ、軍装備の近代化がはかられ、1921年には国家歳出（一般会計）の5割に近かった軍事費が、1926年には3割を切るまでになった。海軍軍縮条約が失効した1936年以降、巨大戦艦大和・武蔵の建造をふくむ大規模な軍備拡張計画が推進された。

日露戦争後に定められた帝国国防方針において、海軍の仮想敵国筆頭とされ続けてきたアメリカとの戦争を迎え、1942年のミッドウェー海戦で主力 [ 5 ] 4隻を失ったことは日本海軍にとって大きな痛手であった。戦中、12隻の戦艦を有していた日本は、終戦までにその内11隻を失っていた。

人類史上唯一の被爆国である日本にとって、1954年、日本の漁船 [ 6 ] がアメリカの水爆実験で被爆し乗組員1名が死亡した事件は一大衝撃であり、1955年に広島で開かれた第1回原水爆禁止世界大会のきっかけとなった。日本の造船量がイギリスを抜いて世界第1位となったのはその翌年、1956年のことであった。

問1 空欄  ～  に入るのに最もふさわしい語句・人名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部(A)に関して、海戦の名称、相手国の艦隊名称を用いて、80字以内で説明しなさい。

問3 下線部(B)に関して、この時期の具体的経過について、統帥権干犯問題など政治的影響にも言及し、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：日露戦争の講和会議はアメリカのポーツマスでおこなわれた。)

加藤友三郎	軍令部	対英米7割	5：5：3	主力艦
補助艦	5年延長	大型巡洋艦対米7割	右翼	枢密院

# 世界史

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

581年、の外戚である楊堅（文帝）が大興城を首都として隋を建てた。隋は589年、南朝のを滅ぼして中国を統一した。文帝は、学科試験による官吏登用法であるを導入して貴族の勢力をおさえて中央集権化をはかった。さらに、外政面では、北方の騎馬遊牧民国家であるを討ち、これを東西の分裂に追い込んだ。しかし、隋は、第二代の煬帝による高句麗遠征の失敗などが影響して、短期間で滅亡した。

隋の煬帝のいところであったは、隋末の混乱に乗じて挙兵して大興城（長安）に入り、618年に帝位について唐を建てた。(A) 第二代の太宗は唐の支配体制の基礎を固め、その治世は年号にちなんで「貞観の治」とたたえられた。

7世紀末、第三代の高宗の死後、皇后の則天武后が中国史上唯一の女帝となり、一時、国号をと称した。(B) その後、唐は、8世紀中頃からの大きな社会的変動に伴って、政治・軍事・財政等の制度も大きく変化していった。

問1 空欄～に入るのに最もふさわしい語句・人名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部(A)に関して、唐初期の支配体制について、あなたの知るところを80字以内で説明しなさい。

問3 下線部(B)に関して、則天武后死後から唐の滅亡に至るまでの歴史的変遷について、次の語句・人名をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句・人名はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：1842年、清はイギリスとの間に南京条約を締結した。)

玄宗	募兵制	節度使	楊貴妃	安史の乱
藩鎮	塩の専売	兩税法	黄巢の乱	朱全忠

# 世界史

## 4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

16世紀のヨーロッパは、「繁栄の時代」とよばれる。それは、ヨーロッパが世界各地との交易を開始したことよるところが大きい。ポルトガル人は、1498年の  によるインド航路開拓を受けて、当時活況を迎えていたアジア間の海上貿易に参加し、インド西岸の  を、次いでアジア間貿易の最大の拠点であった  を占領して、東・東南アジアとヨーロッパを結ぶ貿易ルートを支配した。一方、スペイン人は、新大陸アメリカに領域植民地を築いて大西洋貿易を開拓するとともに、 による世界周航の成功をもとに、太平洋を横断するアメリカ植民地～アジア間貿易にも乗り出した。このように、16世紀ヨーロッパの経済的な繁栄は、アジアにおける広域的な海上貿易活動に食い込むことでもたらされたともいえる。ネーデルラントの  は、インド洋貿易と大西洋貿易の結節地となるとともに、ヨーロッパ内貿易の一大集積拠点として、急速な発展をとげた。

17世紀に入ると、ヨーロッパ経済は縮小し、「全般的危機」とよばれる時代を迎えた。この危機の最大の要因は気候の寒冷化であったといわれるが、世界貿易の面では、ポルトガルとスペインの優位が急速に後退したことが重要である。この事態を招いたのは、(A) 独立戦争中のオランダの躍進であった。オランダは、 が唱えた「海洋の自由」を法的根拠として、アジア・アメリカとの貿易に積極的に乗り出し、ポルトガルとスペインの貿易独占を崩壊させた。こうして17世紀のオランダは、ヨーロッパにおける世界貿易の主要な担い手となり、ヨーロッパ最強の経済大国としての地位を不動のものにした。

問1 空欄  ～  に入るのに最もふさわしい人名・地名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部(A)について、オランダ独立戦争の発端から終結までの経緯を80字以内で説明しなさい。

問3 上の文章を受けて、17世紀オランダによる世界貿易とその後の展開について、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：モンテスキューは『法の精神』を著した。)

重商主義	バルト海貿易	東インド会社	西インド会社
航海法	ケープ植民地	大西洋奴隷貿易	
オランダ戦争 (1672～78年)		イギリス＝オランダ戦争	

# 地 理

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

ラテンアメリカは日本からみると地球の反対側にあたり、最も遠く離れた地域である。ウルグアイ付近の大西洋上が日本の [ 1 ] 点にあたる。1492年にコロンブスが現在の [ 2 ] 諸島に到着し、アメリカ大陸がヨーロッパ人に「発見」されると、南アメリカ大陸にはおもにスペイン、ポルトガルが進出し、植民地を形成していった。

両国はその後、[ 3 ] 条約により南アメリカ大陸の権益を分け合った。スペインは (A)アンデス山脈を含む広大な領域を支配し、ポルトガルはブラジルを起点に西方へ権益を拡大した。そうした影響は、ラテンアメリカの言語分布に色濃く残っている。

ラテンアメリカは、豊富な埋蔵資源の採掘や (B)農業生産によって発展を遂げてきた。ブラジルでは、[ 4 ] とよばれる大土地所有制が導入され、ヨーロッパ人の大地主により大規模な農業が展開されてきた。その後ひとびとは開発地を求めて内陸の奥地へと進んでいったが、近年ではアマゾン川流域の熱帯林の急激な減少が問題となっている。鉄鉱石の産出地として有名な [ 5 ] 周辺でも熱帯林は切り開かれており、持続可能な開発が求められている。

ブラジルは日本にとっても関係の深い国である。日本人のブラジル移民は1908年から始まり、農園での労働や未開拓地への入植が進められたが、それらは多くの苦勞を伴うものであった。彼らやその子孫は現在も [ 6 ] とよばれ、独自のコミュニティを形成している。

問1 空欄 [ 1 ] ～ [ 6 ] に入るのに最もふさわしい語句を、解答欄 (1) ～ (6) にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部 (A) に関して、アンデス山脈は険しい地形や高地であるにもかかわらず、比較的に都市が多く分布する。そうした都市の類型を2つ挙げ、80字以内で説明しなさい。

問3 下線部（B）に関して、ラテンアメリカの農業地域について、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。（例：都心部ではヒートアイランド現象がみられる。）

セラード	テラローシャ	バイオエタノール	パンパ
企業的牧畜	混合農業	焼畑農業	冷凍船

